

「人間愛」を活動理念に掲げ

実践報告

7

企業市民としての取り組み



人々の暮らしと地域社会にかかわる事業を営む当社は、地域と社会の一員として、さまざまな社会貢献活動を進めています。企業理念の根本哲学「人間愛」を活動理念に掲げ、「住文化向上」「次世代育成」「環境配慮」を柱に、「従業員のボランティア活動、チャリティー参加」「NPO・NGOとの協働、活動支援」「教育機関と連携した教育支援活動」などで、一人ひとりの自発的活動が可能な仕組みをつくり、地域に根差した活動を続けています。

社会貢献活動の考え方

住文化向上

次世代育成

環境配慮

- 従業員のボランティア活動
- チャリティー参加
- 国際協力
- 緊急支援
- NPO・NGOとの協働
- 市民活動の支援
- 教育機関と連携した教育支援活動
- 事業活動を通じて

企業理念の根本哲学「人間愛」

■ NPOと協働で障がい者の自立を支援

2000年からNPO法人トゥギャザー（奈良市）と協働し、SELP製品[※]を全国で展開する現場見学会「住まいの参観日」や、展示場への来場者にお渡しするノベルティーとして採用しています。2013年度は3万394個を購入しました。

また、2005年から毎年、本社のある梅田スカイビルで開催されている「障害者週間協賛行事」（後援：内閣府など）に参画、運営に協力しています。「障害者と社会をつなぐシンポジウム」では、「障害者雇用促進法」の改正をテーマに基調講演およびパネルディスカッションを実施。行政・企業・NPO・市民が共に考え、話し合う有意義な場となりました。

※SELP製品：障がい者が社会福祉施設等で職業訓練や社会参加の実現を目的に働き、作った製品



160人が参加した「障害者と社会をつなぐシンポジウム」



SELP製品のエコバッグ

■ 産学協働の「住空間ecoデザインコンペティション」を支援

2.4メートル立方の空間に納まる原寸大モデル制作を前提とした学生コンペ「住空間ecoデザインコンペティション」に2005年度から参加。住空間における環境意識を高めて、今後の住空間のあり方を探るとともに、産学の連携強化、学生間の交流促進、若きデザイナーの育成を主な目的として、関東と関西の2会場でコンペを実施しています。2013年度は全国47大学から214作品の応募があり、それぞれ最優秀賞1作品、優秀賞1作品などが決定しました。



関東・最優秀賞「光のブックステーション」
東京大学大学院 松井一哲さん、東京工業大学大学院 張興さん、
東京大学大学院 小原克哉さん、東北大学大学院 柳曼さん

た社会貢献活動の展開

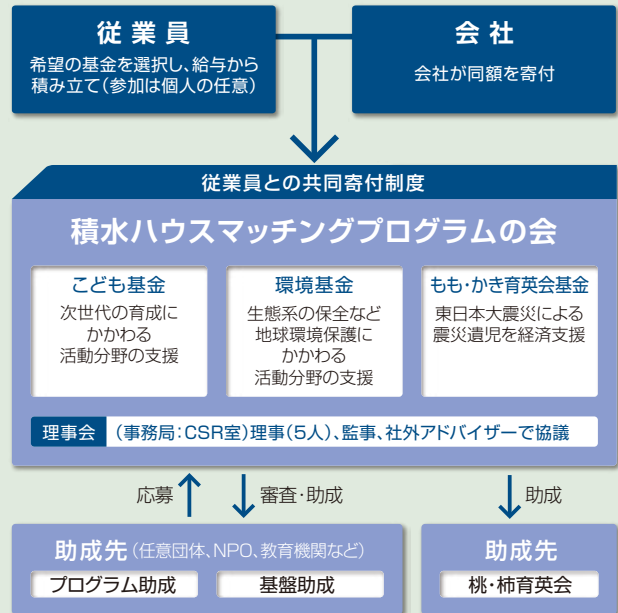
■ 積水ハウスマッチングプログラム

～社会課題の解決を担うNPOなどを支援～

従業員と会社との共同寄付制度「積水ハウスマッチングプログラム」を2006年度から開始。NPOなどの社会課題解決を担う団体を支援しています。このプログラムは、従業員にとって身近なCSR活動の一環として、従業員(会員数3074人)が給与から希望する金額(1口100円)を積み立て、それに会社が同額を加えて寄付する仕組みです。「こども基金」「環境基金」の2基金は、会員代表で構成する理事会で支援先を決定します。また、東日本大震災による震災遺児を経済支援する「桃・柿育英会」(実行委員長:建築家 安藤忠雄氏)を寄付先とする「もも・かき育英会基金」を設置しています。

2013年度は「こども基金」「環境基金」で22団体に2040万円を助成し、これまでの累計金額が1億円を突破しました。「もも・かき育英会基金」は2011～2013年の3年間で2900万円を寄付し、基金設置後10年間で1億円の寄付を実施する予定です。

■ 「積水ハウスマッチングプログラム」の仕組み



プログラム助成 <団体からの申請プログラムに対する助成>

〈こども基金〉 8団体 1030万円

- NPO法人 アジアチャイルドサポート ●NPO法人 アジア日本相互交流センター・ICAN ●NPO法人 アトピzzi地球の子ネットワーク ●NPO法人 オアシス
- NPO法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん ●NPO法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど ●NPO法人 チャイルドライン支援センター ●NPO法人 フローレンス

〈環境基金〉 8団体 890万円

- NPO法人 おおいた環境保全フォーラム ●NPO法人 里山倶楽部 ●NPO法人 白神山地を守る会 ●NPO法人 生態工房 ●NPO法人 棚田LOVER's
- NPO法人 地球と未来の環境基金 ●NPO法人 日本国際ボランティアセンター ●NPO法人 日本チョウ類保全協会

※この他に、団体のインフラ整備、活動の質の向上など、団体の今後の発展に期待して助成する「基盤助成」を、6団体(こども基金:2団体、環境基金:4団体)に実施しています。

VOICE

こども基金 助成先団体コメント

地域の子育て支援・相談拠点を狙った「こども発達支援センター」を新設



積水ハウスの木造住宅「シャウッド」で建築した「こども発達支援センター」

2013年1月、多くの方々のご支援を受け、私たちの夢であった「こども発達支援センター」*が完成しました。国内初のNPO法人によるセンター開所でしたが、ほとんど公的な支援がなかったため、今回の「積水ハウスマッチングプログラム」は、たいへんありがたく、開所に向けての励みとなりました。これによって、子どもたちの遊具、教具、給食備品などを新しくそろえることができたばかりか、未整備だった外構も整えることができました。皆様の思いを受けて、ぬくもりと優しさに包まれた建物の中で、子どもたちが笑顔とともに成長するように、心を込めた療育を行ってまいりたいと思います。



NPO法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん 理事 川口 隆司 氏

※「こども発達支援センター(児童発達支援センター)」は、発達に課題のある子どもたちの成長を専門的に支援する地域の中核的な施設として児童福祉法で認められた児童福祉施設です。

■ 「弁当の日」応援プロジェクトに参画

弁当づくりに必要な「買い出し」から「片付け」までを子どもたちにすべて任せることにより、子どもの生きる力、感謝の心をはぐむ取り組み「弁当の日」応援プロジェクトに参画しています。2013年7月に、グランフロント大阪「住ムフムラボ」で、提唱者の竹下和男氏による講演と、子どもたちによる弁当づくりのイベントを開催しました。



弁当づくりの様子